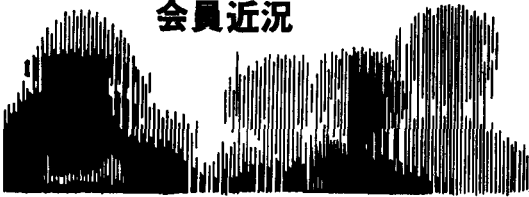


## 会員近況



神戸商科大学  
管理科学科 真鍋龍太郎

最近のこのページに、知的生産の管理のためのハードウェア(机, イス, etc.)を工夫なさっている話が載りましたが(1月号黒須誠治氏), 小生はソフトウェアのほうの話。

ブームに乗って, 小生も研究室にマイコンを置きます。通常の計算の他に, 私どもの大学のように, 秘書, 助手などがいないところでは, 教員が何でもすることになりますので, セクレタリーとして使うことをポチポチしています。たとえば, レポート・エディティングのソフトを利用して, 英文の手紙, 論文はタイプしたものをディスプレイを見ながら修正して, 清書します。ゼミ名簿(学生, 卒業生)もフロッピーに入っていて, もっか, 3月の卒業式直前の土曜日に開く, 例年のゼミ総会の通知状の宛名ラベルを打ち出しています。欲しい本があったら, これまた直ちにタイプインしておき, 注文したらその日付と書店名を, 購入したら図書館の分類番号をファイルします。これで, 著者名で呼び出せ, 重複注文もなくなりますし, 本屋さんへの催促も容易です。文献リストの類も楽につくれます。大きいクラスのエンマ帳もつくります。こんな仕事には, データの入力, 修正, ソート, 印刷のしやすいファイル用プログラムが役立っています。ついでに頭の働きの改善できたらいいのですが, それはイノベーションされず, 肝心の生産のほうはとどこおっています。

電気通信大学 藤澤 武久

現在, 統計数学講座(共通講座)に所属して, 「統計数学」の名のもとに初等数理統計学を, 「確率統計」の名のもとに確率論の基礎, マルコフ連鎖, 多変量解析などを, それぞれ学部の2年生(全学的), 3年生(情報数理工学科)にORモデルを例として引用しながら講義しております。院生に対しては, 「応用確率過程論」の名のもとに, 待ち行列論, 信頼性理論, 再生理論などを中心に問題点を探しながら講義しております。特に, 最近役に立つ「確率・統計」を旨として, 種々の確率的O

Rモデルの解析に関心を抱いております。応用確率過程(確率的ORモデルを含む)に関する諸問題について討論するため, 科研費によるシンポジウム「応用確率過程とORモデル」を本年末に開催しますので, どうぞふるってご参加ください。この件に関しては「OR学会だより」をご覧ください。

東海大学  
工学部経営工学科 栗野 敏雄

高橋編集委員長より依頼を受けずいぶん遅れてしまい, 申し訳ないと思っています。大学の先生生活にもだいぶ慣れてきたつもりですが, なにやかやと気ぜわしい毎日を送っております。

昭和49年3月に大学院工学研究科経営工学専攻修士課程の設置が認められ, 同年4月に第1期生が入学して以来, 毎年新入生を迎え, 今日にいたっております。おかげで今までに卒業生は16名, 在学生は16名となっております。その中には外国からの留学生が3名含まれております。

ついで昭和51年3月, 修士課程第1期生の卒業と研究指導教員の充実などによって, 博士課程の設置が認められました。初年度は入学者はいませんでしたが, 52年度に2名, 53年度1名, 54年度1名というように各年度にわたって入学し, 勉学にいそしんでおります。戦後の新学制が発足してから30有余年を経過いたしました。大学の教育も徐々にではありますが, 着実にその方向に進みつつある現状です。

法政大学経営学部 遠田 雄志

ここ10年ほど“意思決定と情報”をテーマとして, 食いつないできた。そこで想定されていた決定主体は合理的存在であり, その行動が目的と計算とに対応しているものである。もちろんORにおいてよくするところのものである(さらに最近のORを観ると, ORとは optimum research の略称かの感を受ける)。

しかし最近少なからぬ決定場面, 特に大学などのそれにおいて, このいわゆる合理的モデルはなんとも包みきれない, あるいは説明しきれない現象に出合う。いや正確には, そんな現象には以前から幾度となく出くわしていたのだが, 生来の裏街道好き, ヒネクレ性向がまたぞろ頭をもたげ, それが目につき興味をそそったというべきであろう。爾来, 新聞読みにも3時間をかけて, 社会の

さまざまな決定状況におけるハミ出し現象を漁るのが日課となっている。

そんな小生にとって「人間なんてものはさほど合理的なものでもなく、多くの事象が存外単なる偶然の積み重ねの結果なのかも知れない」という考え方は、熾感的である。ともかく、世界の不条理性を考慮に入れた意思決定論を模索している。J. G. March and J. P. Olsen, *Ambiguity and Choice in Organizations*, 1976, はこうした定位をもつ研究の最初の成書であろう(関心のある方は、法政大学経営学会“経営志杯”第17巻第4号所収の小生らによる書評を参照されたい)。

四十を前にして感うことしきりのこのごろである。

名鉄交通(株) 副社長 村手 光彦

伊勢湾台風の年(昭和34年)に日科技連の講習を受けて

ORマンの仲間入りをした企画・合理化屋時代、私鉄としては初めてコンピュータ(H-3010)を導入して、みずからプログラムやオペレーションに没頭した電算部長時代が昨日のこのようですが、今はなぜか857両の車と2200人の従業員をもつタクシー会社の副社長です。

経験3年あまりにして、タクシー経営の要点は乗務員1人1人のハングリーな意欲の維持、いわば人間心理の問題にあることを身にしみて理解できたような気がします。ORの問題がたくさんあり、自社のオペレーションを決定できる立場と、非常勤会社の大型コンピュータ(H-M170)をタダで使える立場をもっていますが、自分のチェのなさを棚に上げて、有能な頭の柔らかいORワーカーの不足を嘆いています。この種のORにご関心ある方々のご連絡、ご指導をお願いいたします。

帰宅すれば、マイコンのハードとソフトをいじくり廻して楽しんでいる毎日で、多少なりとも頭の老化が遅くなると良いがと思っています。

### 会合記録

( )内は出席者数  
庶務幹事会 7月2日(木)(3)  
編集委員会 7月3日(金)(12)  
IAOR委員会 7月10日(金)(2)  
研究普及委員会 7月17日(金)(6)

編集委員会 8月5日(水)(12)  
庶務幹事会 8月27日(木)(4)

### 入退会

(56.4.22~56.6.16)

●退会(正会員)  
伊藤 栄明 下田 長雄 富澤

健一 大久保和正 殿岡 元治  
友藤 寿夫

学生会員 S. M. A. Halim

計報 水谷一雄氏(神戸大学名誉教授) 昭和56年9月12日急逝されました。享年83才。謹しんでお悔み申し上げます。

編集後記 ▶大地震の噂される中で無事9月も過ぎました。天災よりも人災ともいふべき騒動が気になります。ポーランド、リビア沖、イラン、北朝鮮、カンボジア…キナ臭い話が新聞紙上を賑わしています。私事になりますが、アセアン諸国を歴訪する機会を得て「何でも見てやろう」の精神で回ってきましたが、各国とも防衛軍勢力の強化および国民への防衛意識の徹底ぶりが目につきました。空腹を堪えながら、現在の体制を守ることに関心している様子に哀れさを感じるとともに、日本

はあまりにも平和だと改めて実感しました。日本人は紛争に対して無頓着に過ぎるのではないだろうか?

▶折りしも本号の特集は「ゲーム理論」。石油、衛星通信等の国際的問題を扱った事例も紹介されています。今後より一層の発展により紛争が回避され、無益な血が、そして多くの涙が流されなくなることが望まれます。

▶大山達雄氏の「マトロイド理論」は筆者の都合により今回は休載します。来月から再開しますのでご期待ください。(M)

## オペレーションズ・リサーチ

昭和56年10月号 第26巻(新シリーズ第6巻) 10号 通巻250号  
代表者 松田 武彦  
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113  
編集人 小林 竜一  
発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ